

■ 基礎学力定着の取り組み

1 足立区の概要(資料1-1、2、3、4、5)

- ・就学援助比率の高さ
- ・新規採用教員配置の多さ

2 平成20年度からの取り組み

① 基礎学力の定着に向けて(資料2-1、2、3、4 資料3-1、2)

- ・算数の基礎が身につかないまま数学へ(中学校から小学校へ資源シフト)
- ・課題のある子への対応として、少人数指導の徹底と個別指導の充実。
- ・区独自の副担任講師の一律的配置と弾力的な運用。
- ・課題解決には、一層の少人数学級と低学力対応としての加配が不可欠。

② 就学前教育の充実へ(資料4、資料5)

- ・保育園年長児への働きかけ
- ・検討会での完成度より現場での早期取り組み

3 今年度の取り組み(資料3-3)

- ・算数、国語とも全体的に少しずつ上昇する中で、厳しくなる学校への対応に向けて、活用可能な資源での新たな取り組み。
- ・自立支援プログラムの福祉部、産業経済部との連携について検討

【資料】

- 資料1-1 足立区生活保護・就学援助の状況
- 資料1-2 新規採用教員の配置状況
- 資料1-3 1学級あたりの児童数と学力(平均点)の関係
- 資料1-4、5 学力調査結果と就学援助比率の相関(小学校・中学校)
- 資料2-1 足立区学力調査に関する総合調査結果
- 資料2-2 学年別・科目別正答率(30%未満・50%未満)の推移
- 資料2-3、4 学力調査平均点獲得人数の割合(小学校・中学校)
- 資料3-1、2、3 基礎学力定着の取り組み
- 資料4 幼・保・小連携(就学前教育)の取り組み
- 資料5 あだち5歳児プログラム
- 《参考》
- 資料6 23年度足立区教育予算概要
- 資料7-1、2、3 23年度重点プロジェクト事業評価調書

足立区学校教育部 鈴木

足立区 生活保護・就学援助の状況

年度	足立区立小学校						
	在籍数	児童数			保護率 (%)		
		総数	要保護	準要保護	要保護	準要保護	合計
18	32,919	13,089	1,125	11,964	3.42	36.34	39.76
19	32,602	12,362	1,023	11,339	3.14	34.78	37.92
20	32,633	11,784	982	10,802	3.01	33.10	36.11
21	32,550	11,747	1,071	10,676	3.29	32.80	36.09
22	32,343	12,093	1,067	11,026	3.30	34.09	37.39
23	31,615	10,912	961	9,951	3.04	31.48	34.52

各年5月1日

年度	足立区立中学校						
	在籍数	生徒数			保護率 (%)		
		総数	要保護	準要保護	要保護	準要保護	合計
18	14,120	6,241	719	5,522	5.09	39.11	44.20
19	14,366	6,252	674	5,578	4.69	38.83	43.52
20	14,386	6,172	708	5,464	4.92	37.98	42.90
21	14,347	6,308	741	5,567	5.16	38.80	43.97
22	14,169	6,616	765	5,851	5.40	41.29	46.69
23	14,119	6,252	672	5,580	4.76	39.52	44.28

各年5月1日

参考:特別区民税・都民税申告者段階別所得者数(総合課税分)

一人当りの合計所得額	20年(人)	21年(人)	22年(人)
千円～100万円	82,634	84,329	87,850
～500万円	227,437	230,178	231,110
～1000万円	38,439	38,557	35,801
～1500万円	4,650	4,524	4,141
～2000万円	1,467	1,389	1,268
2000万円～	1,660	1,668	1,503
計	356,287	360,645	361,673

各年7月1日

(いずれも「数字で見る足立」より)

新規採用教員の配置状況

5年間の新規採用者数(足立区)

	19年度		20年度		21年度		22年度		23年度	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
正 規	53	30	92	46	133	33	89	35	122	57
期 限	37	14	50	12	20	16	32	21	31	24
計	90	44	142	58	153	49	121	56	153	81
合 計	134		200		202		177		234	

◇ 23年度新規採用情報(他区) 練馬区158名、江戸川区192名

練馬区(小65校・中34校)、江戸川区(小73校、中33校)

◇ 新規採用教員配置状況(足立区)

学年担任 83名/1年20名、2年13名、3年21名、4年16名、5年12名、6年1名

その他 70名/少人数、特別支援、専科等

加配教員の实態と活用状況(足立区)

	18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
指導改善	72	40	72	39	72	38	72	38	72	38	72	38
不登校	0	4	0	7	0	9	0	10	0	12	0	11
日本語	0	0	4	0	4	0	4	0	5	0	3	0
計	72	44	76	46	76	47	76	48	77	50	75	49
合計	116		122		123		124		127		124	

<文科省基準>

指導法改善とは、「少人数指導」「ティームティーチング(TT)」「選択履修拡大」

* 選択履修拡大とは、学級枠を超える学習集団を編成する学習法

<H16都教委指針>

- 1 学校は実施計画書を作成し、都教委に提出する。
- 2 指導法改善では、TTを取り入れつつ、少人数指導を推進する。
小学校は、国語・算数・理科を含める。
中学校は、国語・数学・理科・英語とする。
* 都教委は、実施状況の報告を年1回区に義務付けている。
- 3 不登校は、3年間継続し、年30日以上欠席した生徒のいる学校が対象
- 4 日本語は、3年間継続し、指導が必要な児童・生徒が5人以上いる学校が対象

1学級あたりの児童数と学力(平均点)の関係

平成21年度

児童数(人)	国語(点)	算数(点)	2科平均(点)	学級数(学級)
00~19	66.9	79.1	73.0	7
20~24	69.9	78.6	74.2	74
25~29	72.0	79.9	75.9	219
30~34	72.4	79.8	76.1	356
35~39	73.1	80.1	76.6	189
40	68.7	75.5	72.1	6
総計	72.2	79.8	76.0	851

平成22年度

児童数(人)	国語(点)	算数(点)	2科平均(点)	学級数(学級)
00~19	68.7	78.0	73.3	8
20~24	72.5	80.1	76.3	70
25~29	72.7	79.9	76.3	209
30~34	73.6	79.7	76.7	354
35~39	74.0	79.7	76.9	198
40	74.8	78.3	76.6	10
総計	73.4	79.8	76.6	849

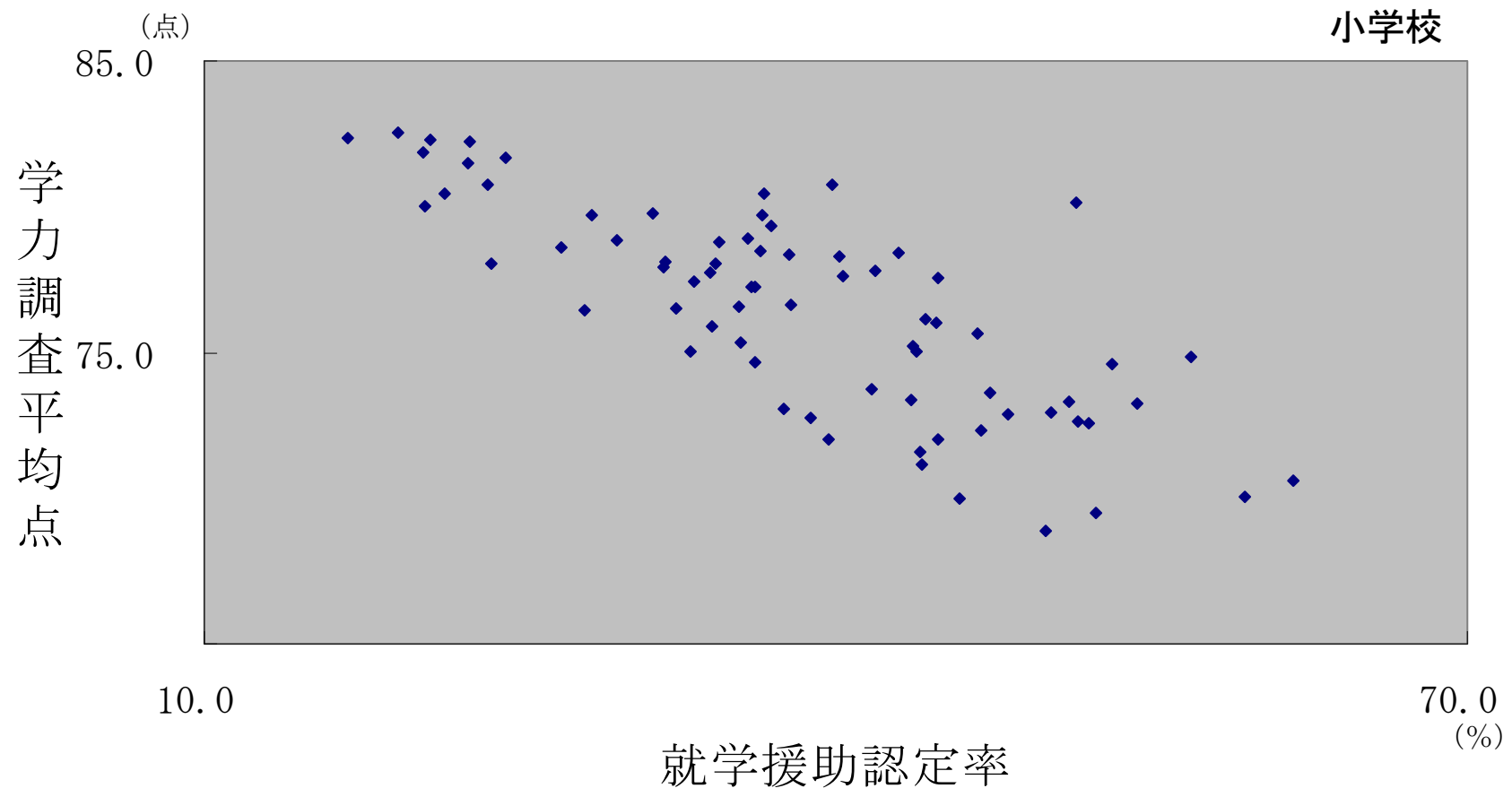
※ 表中「児童数」は「足立区学力向上に関する総合調査」の受検者数。

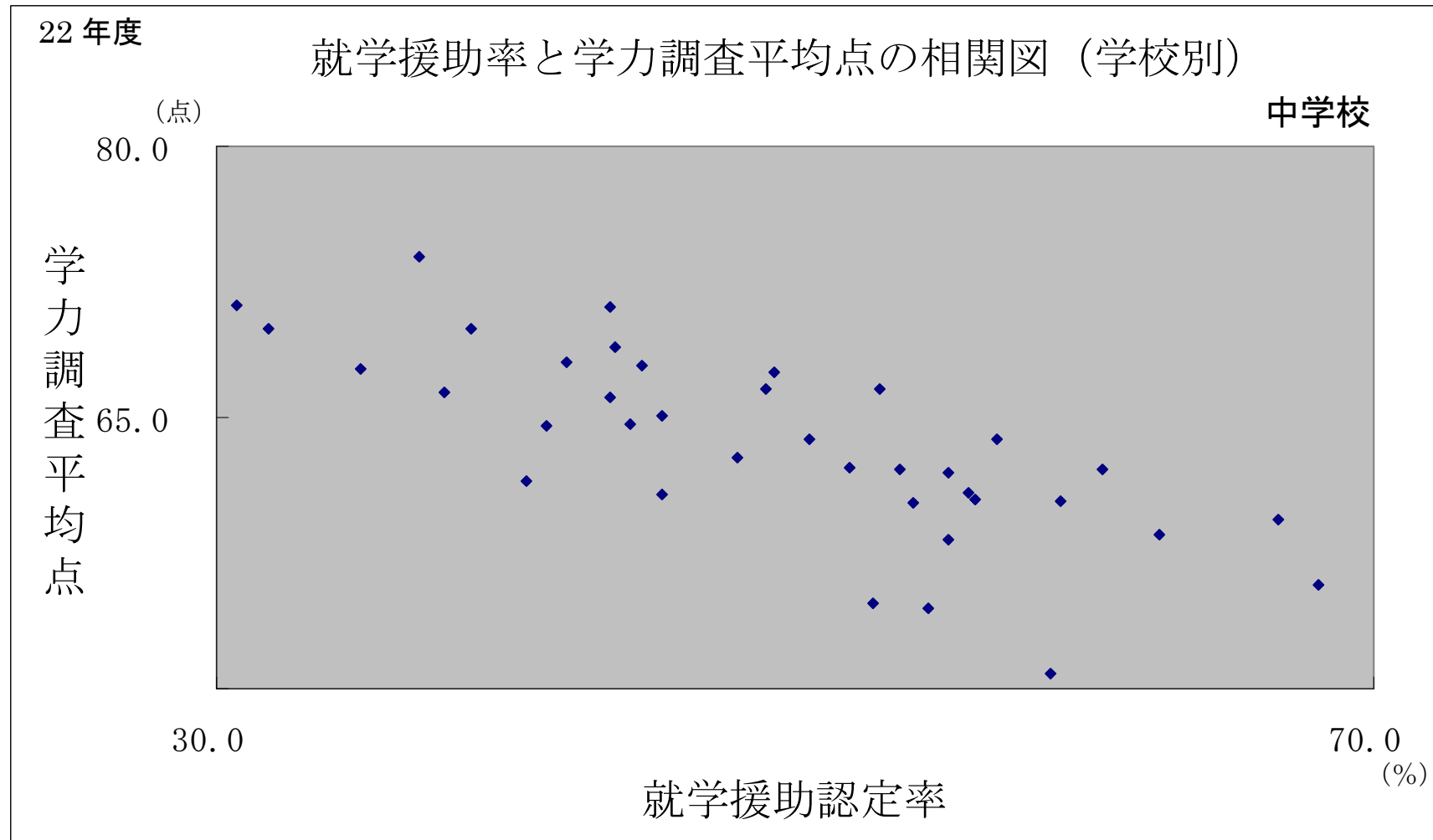
(「足立区学力向上に関する総合調査」より)

22年度

就学援助率と学力調査平均点の相関図（学校別）

小学校





「足立区学力向上に関する総合調査」結果（平成20年度～平成22年度）

■ 小学校正答率70%以上の児童の割合

	全体			小2			小3			小4			小5			小6		
	国語	算数	平均	国語	算数	平均	国語	算数	平均	国語	算数	平均	国語	算数	平均	国語	算数	平均
平成20年度	56.1%	74.5%	65.3%	69.9%	92.6%	81.2%	62.3%	74.3%	68.3%	48.7%	73.8%	61.2%	44.5%	73.3%	58.9%	55.3%	58.4%	56.9%
平成21年度	61.3%	75.9%	68.6%	73.2%	95.8%	84.5%	75.1%	78.7%	76.9%	53.5%	73.9%	63.7%	56.3%	69.5%	62.9%	46.3%	59.8%	53.1%
平成22年度	63.4%	76.6%	70.0%	81.0%	96.7%	88.9%	69.9%	76.8%	73.3%	60.6%	73.3%	66.9%	47.5%	69.5%	58.5%	58.5%	67.8%	63.2%

（「足立区学力向上に関する総合調査」より）

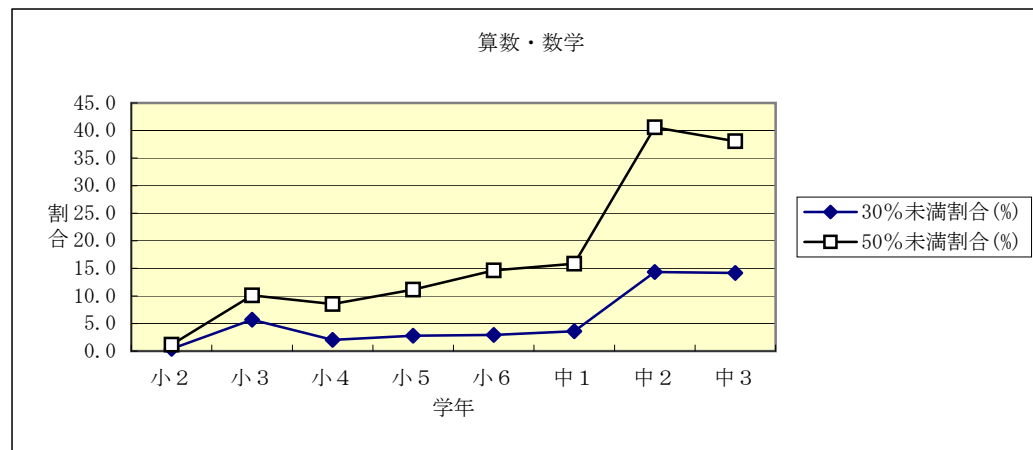
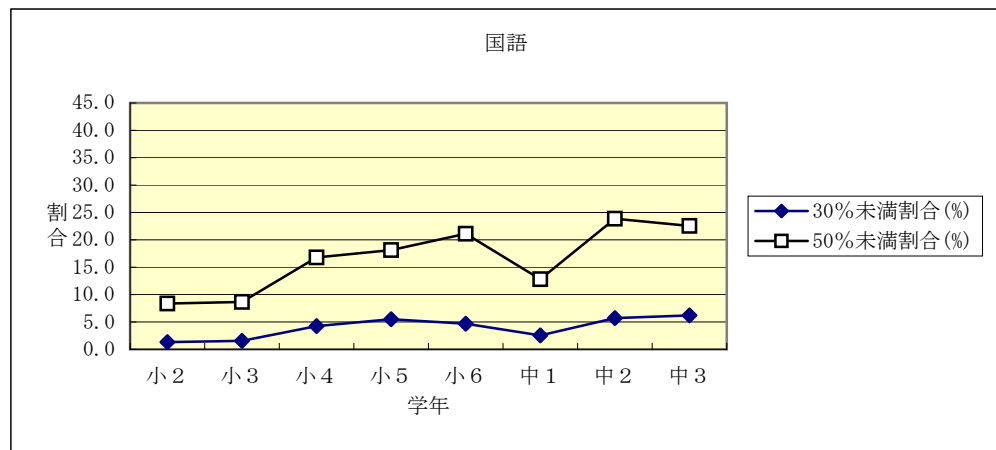
■ 中学校正答率60%以上の生徒の割合

	全体				中1			中2				中3			
	国語	数学	英語	平均	国語	数学	平均	国語	数学	英語	平均	国語	数学	英語	平均
平成20年度	60.0%	56.1%	54.1%	56.8%	64.3%	70.9%	67.6%	61.8%	51.8%	55.1%	56.2%	54.0%	45.6%	53.2%	50.9%
平成21年度	66.8%	57.3%	53.5%	59.2%	75.6%	74.7%	75.1%	60.1%	47.3%	58.7%	55.4%	64.6%	49.8%	48.6%	54.3%
平成22年度	70.9%	59.7%	54.2%	61.6%	66.0%	77.0%	71.5%	76.8%	52.2%	59.7%	62.9%	70.0%	49.1%	48.5%	55.9%

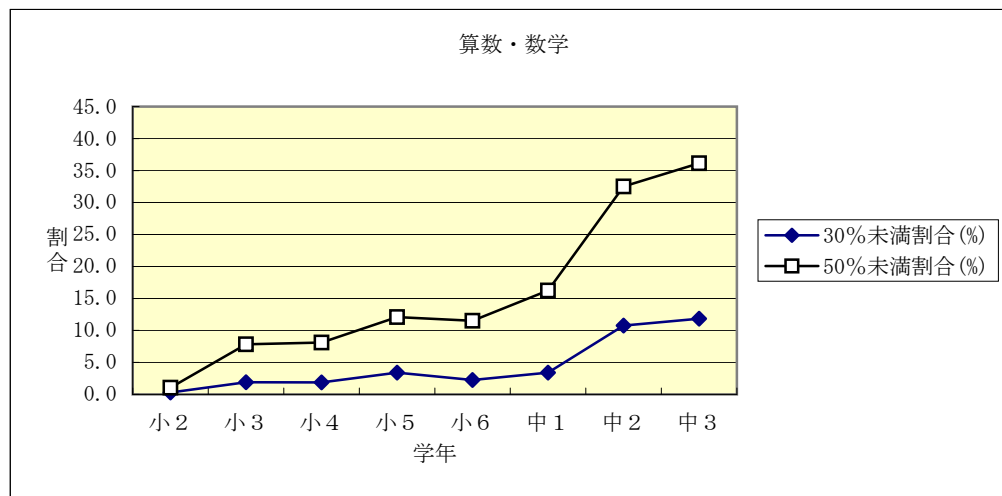
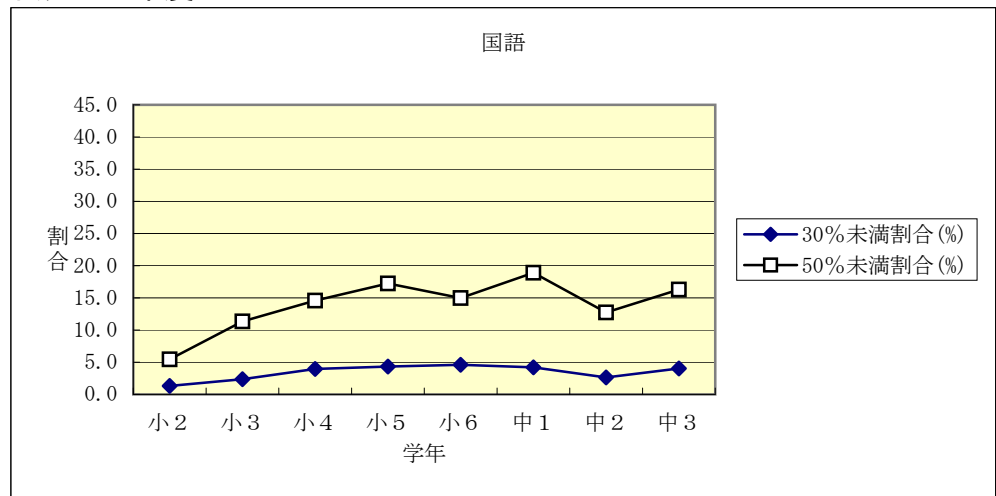
（「足立区学力向上に関する総合調査」より）

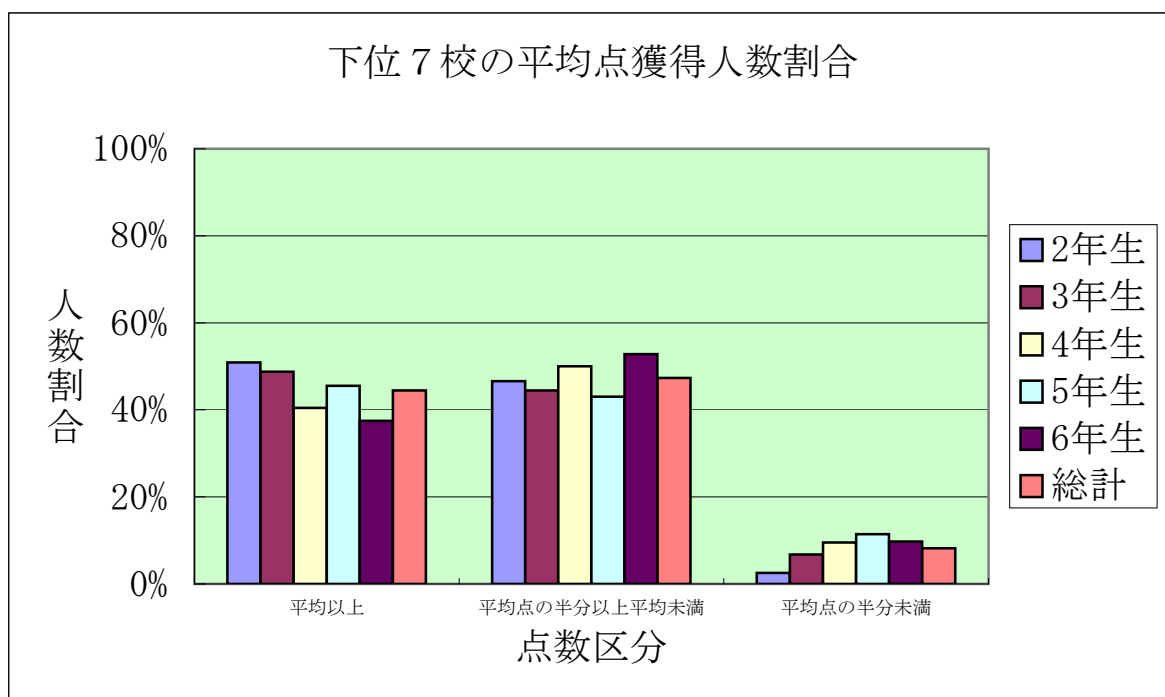
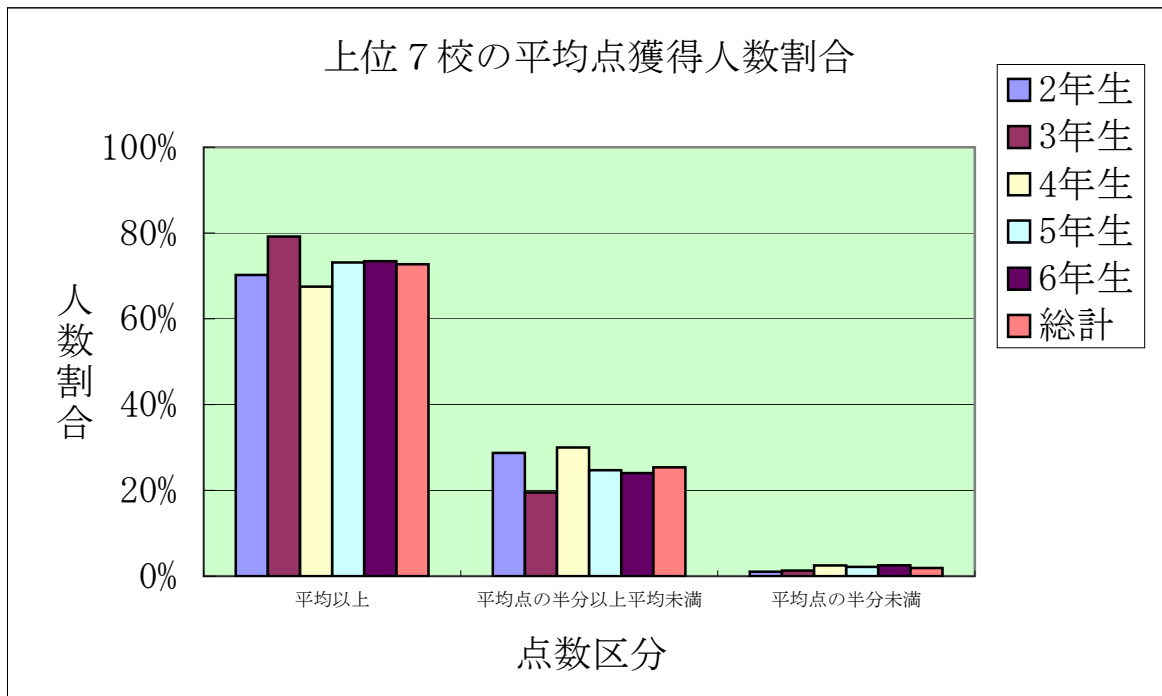
学力調査の正答率が30%・50%に満たなかった児童生徒の割合（学年別）

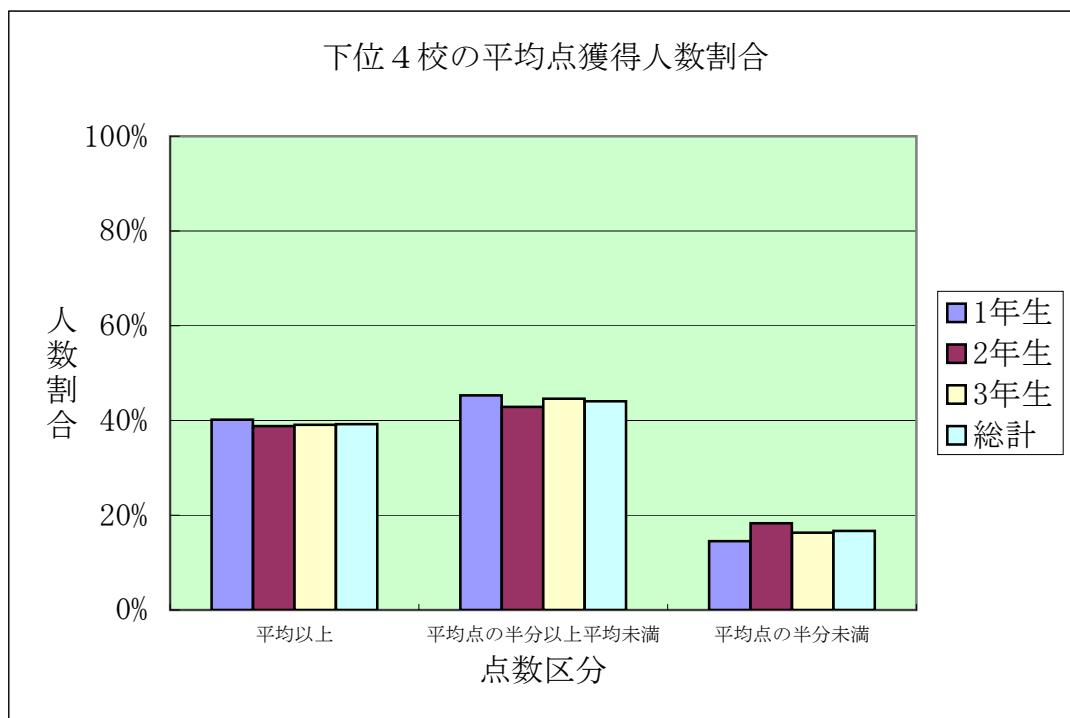
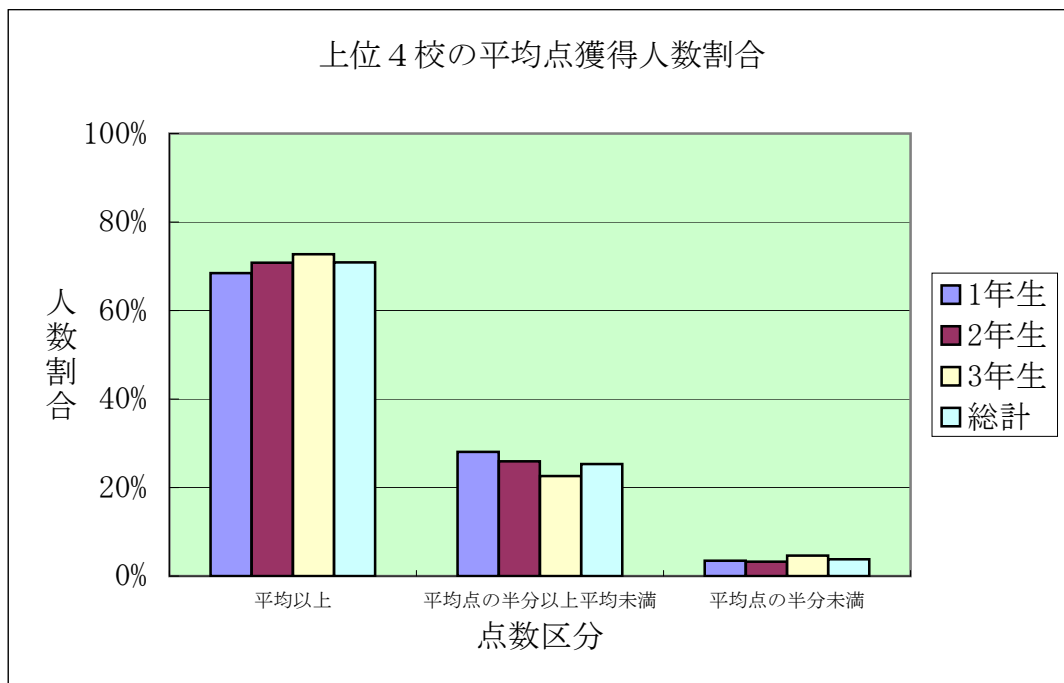
平成21年度



平成22年度







就学前教育の充実(幼保小連携事業、私立幼稚園早期就園助成)

放課後子ども教室(見守員+大学生による図書館学習)

副担任講師の配置

小学生基礎学習教室

理科実験体験

小学1、2年生

小学3、4年生

小学5、6年生

1日大学体験

平成23年度事業

帝京科学大学連携

- 小学生動物ふれあい教室
- 小学生大学遠足等

開かれた学校づくり協議会
(別紙参照)

学校図書館支援の
全校配置

中学1年生

中学2年生

中学3年生

一日大学体験

中学生補習講座

子ども元気基金活用事業(学習、体験の充実・拡大)

土曜授業の実施・小中連携校(モデル校3校)

平成12年分権改革
「地域づくりと一体化
した地域教育創造の
端緒を開いた」

学校支援・地域づくり

平成12年 開かれた学校づくり協議
会モデル実施 5校

学校・教育委員会

平成14年 開かれた協議会全校実施

平成16年 二期制全校実施

平成16年 五反野小理事会 全国初

平成18年 幼保小連携会議
中学補習講座に民間事業者

鈴木文科副大臣の
「コミュニティスクー
ル三段階説」

1段階:土曜学校や
放課後子ども教室の
実施。ボランティアカ

平成19年 谷中中学校運営協議会

平成19年 夏休5日短縮

2段階:学校支援地
域本部。1段階に加
え、図書館や芝生の
整備、IT教室など。
事務局長の力が鍵

○子どもたちへの更なる教育の
質的向上が不可欠
○地域が今まで以上に学校運営
に参画することが鍵

平成20年以降 基礎学力の
定着と体験交流活動の充実
に向け、現在の施策を推進

3段階:本格的コミュ
ニティスクール。区民
や保護者が具体的な
学校運営の責任者と
して参画。

**開かれ協議会型コミュ
ニティスクールへの移行**

徹底した基礎学力の定着

平成22年度事業

子ども元気基金助成事業

- 体験、交流が子どもたちの自己認識へと
- 子ども教育委員会の意見等の反映
- 学校の主体性や教員の自発性の発揮の場
- 習得から「活用」「探求」への展開を重視

中学生補習講座の希望制から全校実施

小学生基礎計算補習教室の実施日数倍増

サマースクール全校展開

副担任講師の配置活用

フロンティアスクール(モジュール授業, 基礎体力づくり等)

中学生大学一日体験

中学生魚沼農業体験

小中学生の百人一首大会

将棋連盟との連携事業

小学生ものづくりフェスタ

小学生理科実験教室

基礎学力の定着

体験 交流の充実

たくましく生き抜く力を育む

基礎学力定着プロジェクト

平成23年度新規事業

小中連携事業

{小学校 + 中学校} × 3組

校長経験者派遣支援事業

(基礎学力重点校)
小学校 7校

国語強化モデル事業

舎人小学校(特殊音節多層型指導)

算数強化モデル事業

弘道第一小学校(子ども個々の学力分析・共有ポートフォリオを目指して)

区小研・区中研連携事業

算数部会 + 数学部会の連携分科会

子ども元気基金事業

辰沼小学校(やる気を生む自主学習の勧め)
千寿桜堤中学校(より高い目標に向けての外部講師+教員集団の取り組み)

プロジェクトメンバー

【小学校校長会】

【中学校校長会】

【小学校副校長会】

【教育委員会事務局】

【中学校副校長会】

長期的視点で、基礎学力定着に向けた施策の立案・実践

足立区における幼・保・小連携(就学前教育)の取り組み

●幼保小連携ブロック会議(全13ブロック)

	平成21年度	平成22年度
開催回数	35 (各ブロック2~4回)	40 (各ブロック3~4回)

●体験給食(幼稚園児・保育園児⇒小学校)

	平成21年度					平成22年度				
	幼稚園		保育園		合計	幼稚園		保育園		合計
	公立	私立	公立	私立		公立	私立	公立	私立	
実施園数	3	20	48	23	94	3	31	49	31	114
参加園児数	88	1,420	1,033	403	2,944	87	2,047	1,085	568	3,787
受入小学校数	59 (85)					68 (95)				

※()内は述べ実施校数

●交流研修(小学校教員⇔保育園保育士) ※平成22年度開始

①小学校教員⇒保育園

	平成22年度
実施小学校数	72
参加教員数	118
(うち、初任者・新規採用)	(79)
(うち、1年2年担任・希望者)	(39)

②保育園保育士⇒小学校

	平成22年度
実施保育園(幼保園1園含む)数	52
参加保育士数	52

「たくましく生き抜く力」の礎を築く
あだち5歳児プログラム

—小学校で学ぶ喜びを味わうための意欲や態度を育むために—

平成23年3月

足立区・足立区教育委員会

< 目 次 >

5歳児プログラムの活用について	1
基本的な生活習慣 < 1日の生活 >	2
< 学びへの構え >	3
< 身の回りの整理 >	4
< 食事・排泄 >	5
他者とのかかわり < 友達との関係 >	6
< 担任との関係 >	7
< 規範意識のめばえ >	8
学びのめばえ < 学習習慣・意欲 >	9
< 数や形 >	10
< 言葉・文字 >	11
< 自然 >	12
< 運動 >	13
< 表現 >	14
< 参考 > 小学校スタートカリキュラム	15
幼児教育振興プロジェクト委員会 委員名簿	16

「あだち5歳児プログラム」の活用について

4月、希望に満ちた1年生が区内の各小学校に入学します。

子どもたちはもちろんのこと、保護者も、地域も、そして保育園・幼稚園・幼保園で保育・教育にかかわっている職員も、子どもたちの小学校での生活が充実した楽しいものとなることを強く願っています。

しかし、小学校に入学しても落ち着いて話が聞けない、友達と上手くコミュニケーションが図れない、集団での活動のルールが守れないなど、いわゆる「小1プロブレム」が一部の児童に見られます。

また、小学校で基礎学力の確実な定着を図るためには、就学前教育で「学びの芽」をしっかりと育て、小学校での学びに円滑に接続させることが必要です。

足立区では、これまでに「未来を創る 足立っ子すくすくガイド」(平成17年3月)、「たくましく生き抜く力を育む 足立っ子すくすくガイド」「足立っ子保育ガイド」(平成21年11月)を作成し、就学前教育の充実を推進してきました。そして今回、これらのガイドを土台に、特に接続期として重要な5歳児の保育・教育に焦点を当てて、「あだち5歳児プログラム」を作成しました。

本プログラムでは、5歳児で身に付けてほしい「基本的生活習慣」や「他者とのかわり」、「学びのめばえ」について、育てる子どもの姿をイメージして、具体的な指導内容を提示してあります。

公立の保育園・幼稚園・幼保園で、これをもとに年間指導計画を作成し、子どもたちに最も効果的な指導を、意図的・計画的に進めてください。そのことが、子どもたちの学ぶ意欲と関心を引き出し、「たくましく生き抜く力」の礎を築くことにつながると確信します。

また、小学校教育研究会教育課程委員会が作成した「小学校スタートカリキュラム」と併せて活用することで、小学校への円滑な接続が進むものと期待します。

各園での実践をもとに、平成23年度中にプログラムの効果について検証を行い、さらなる内容の充実を図っていきます。

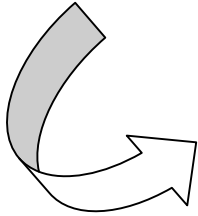
平成23年3月

足立区・足立区教育委員会

基本的生活習慣 < 1日の生活 >

【育てる子どもの姿】

早寝早起きの習慣を身に付け、親子で時間を守って登園する。
生活や活動を進める中で、自分のなすべきことが分かり、見通しをもったり、周囲の状況を判断して行動したりする。
遊びや生活の中で動と静、緊張と開放を感じ、気持ちを調整しながら行動する。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・自分の力で決められた時間までに登校します。
- ・1日の生活の流れは、授業時間(45分)、休み時間、給食時間等、一定時間ごとの区切りで生活しています。
- ・時間割に沿って学習活動が展開されるため、休み時間に学習用具の準備を行ったり、トイレを済ませたりします。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

みんなで集う楽しさの体験を積み重ねる(「朝の会」「帰りの会」など)

- ・みんなであいさつをする、出欠調べで元気よく返事をする、日にち・曜日・天気を確認する、保育者が1日の流れを簡単に話すなど、「聞く・話す」活動を取り入れましょう。
- ・日にちは、日めくりや月ごとのカレンダーを用意して、「数字に関心をもたせる・数字を読む・数字の順番を知る」等の活動につなげましょう。
- ・司会は、保育者から子どもへと順に移行するようにして、リーダー役を体験させます。
- ・歌、クイズ、読み語り、言葉遊びなども取り入れて、体と脳を目覚めさせ、楽しさをみんなで共有する経験を積み重ねられるようにしましょう。
- ・帰る前には、その日の遊びや生活を振り返り、感じたこと、考えたことを言葉で伝えたり、友達の話の聞いたりして、翌日の活動に期待がもてるようにしましょう。

生活の流れを予測して行動する

- ・個の活動や集団活動など、見通しをもって生活できるようにし、集団での活動の前には、活動と活動の間に、トイレ、水飲み、手洗い、うがいなどを自発的に済ませられるよう指導しましょう。
- ・様々な活動の時間は、開始前にどの程度(どのくらいの時間)行うのか予告して、区切りを意識させるとともに、終了前にはまもなく終了することを予告して、自ら活動を終えて、後始末ができるように意識付けましょう。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

見通しをもって自ら行動する

- ・朝の会を意図的に設け、前日までの活動の流れや予定の確認から、1日の生活の見通しをもち、自ら進んで行動できるようにします。
- ・クラス全体で活動する時間や個人・グループで活動する時間など、意図的に活動時間を構成し、気持ちを切り替えて、それぞれの活動に集中できる習慣を身に付けさせていきましょう。



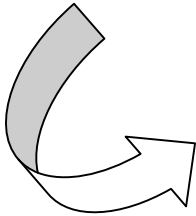
家庭への発信

- ・早寝、早起きの生活リズムを整え、9時までに登園するなど、4月以降の小学校での生活に順応できるよう準備しましょう。
- ・学校の環境に慣れ、入学への期待が高まるよう、各学校で就学時健康診断を受けましょう。
- ・安全な通学への準備や学校への親しみや期待に向けて親子で通学路を歩く経験をしましょう。

基本的生活習慣＜学びへの構え＞

【育てる子どもの姿】

正しい姿勢で椅子に座り、話をする人の方を向いて、集中して話を聞く習慣を身に付ける。
保育者の話をよく聞き、理解して行動する。
自分の用具を整理し必要に応じて使う。
掲示物に興味をもち、進んで見たり内容を理解したりする。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・通常、椅子に座り、黒板に向けた学習活動の時間が多くなります。
- ・学習活動の深まりは、「話を聞いて考える」「話を聞いて行動する」など、話を聞く態度の育ち具合に大きく左右されます。
- ・一人一人の机と椅子、ロッカー等が決められていて、管理は、各自が主体的に行います。
- ・黒板や掲示物から、予定や学習にかかわる事柄、友達の考え方や方法などの情報を読み取ります。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

姿勢よく座り、集中して話を聞くこと

- ・姿勢よく座り、保育者の話を集中して聞く習慣が身に付くようにしましょう。話し手の目を見ることや話し手の方に体の正面を向けることが大切です。
- ・「足を床につける」「背筋を伸ばす」など具体的に動作を示すなどし、よい姿勢を保つことの心地よさや大切さを感じられるようにしましょう。
- ・小学校との交流活動では、学校を訪問し、実際に椅子や机に慣れるなどの経験をし、安心感や期待感をもてるようにしましょう。

活動に必要な用具の準備や片付け

- ・はさみやクレヨン、色鉛筆、自由画帳など、必要な用具を準備したり、使ったものを所定の場所に片付けたり、道具箱などをいつも使いやすいように場を整え、自ら整理整頓しておく習慣が身に付くようにしましょう。
- ・終了時間を意識しながら準備や片付けができるようにしましょう。
- ・子どもが必要に応じて取り出しやすく、片付けやすいように環境を整えます。

季節感や社会事象を意識したカレンダー・ポスターなどの掲示物の工夫

- ・季節や社会事象(読書週間・オリンピック・宇宙飛行など)に関連した写真やカレンダー、ポスターなどを掲示しましょう。興味・関心をもって見ることができるよう情報発信の方法も工夫しましょう。
- ・伝統的な行事に関心をもち、季節や生活の変化に気付けるようにすることが大切です。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

説明を聞いて行動する習慣(1対多で聞き、見通しをもって自分なりに行動する)

- ・活動の前に、意図的に説明をする時間を設けましょう。内容や手順を聞いて、自ら考えながら活動を進めていく経験をする中で、話をよく聞くことの必要性が意識されていきます。
- ・説明の後に、内容や手順のポイントを聞き返して、理解しているか確認をすることも重要です。
- ・手順や方法の説明は、絵や図を活用し、「聞くこと」「見ること」の活動を併せるなどの工夫を考えると、子どもにとって、より理解しやすいものとなります。



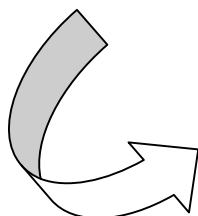
家庭への発信

- ・椅子に座る姿勢や話を聞く態度など家庭でも意識して生活できるようにしましょう。
- ・掲示やプリントを通して、明日の活動や連絡事項を保護者と子どもで確認し合い、忘れ物をしない習慣が身に付くようにしましょう。

基本的生活習慣＜身の回りの整理＞

【育てる子どもの姿】

使った遊具や用具を元の場所へ片付け、身の回りの物を大切に扱う。
自分の持ち物や靴、傘などは所定の場所に自分でしまい整理する。
ハンカチやティッシュなどは自分で携帯し必要に応じて使用する。
靴の脱ぎ履き、洋服の脱ぎ着などは、一定時間内で手際よく行う。
保育室の清掃を友達や保育者と一緒に行う。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・教科書や鍵盤ハーモニカ等の学用品、体育着、上履き、ランチョンマットなど、自分の持ち物として管理するものが増えるとともに、持ち運びやロッカーなどへの収納は自分で行います。
- ・机の中の道具箱を活用し、教科書、ノートなどを整理整頓します。
- ・ハンカチやティッシュは、通常ポケットなどに入れ、汗をふく・鼻をかむなどを自らの判断で行います。
- ・体育着へ(から)の着替えは、休み時間の限られた時間内で行い、脱いだ服はたたんでしまいます。
- ・自分たちが使用している教室や廊下は、当番や役割等を決めて、自分たちで清掃します。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

持ち物の自己管理

- ・保育者が持ち物やロッカーをきちんと整理しているか確認を行い、整理の仕方を教えたり、子どもと共に考えたりしていきましょう。はじめは保育者の声かけに応じて整えようと行動しますが、徐々に自分で考えて整えられるようになることが大切です。タイミングをとらえて、一斉指導と個別指導を効果的に進めましょう。
- ・日々の生活や雨の日の園庭散策などを通して、水を切る、たたんで留めるなど傘の扱いになれ、傘立てに入れるなど、必要性を感じて、一人で始末ができるようにしましょう。

靴の脱ぎ履きや衣服の脱ぎ着

- ・小学校では、靴箱の前でみんなが床に座り込んで靴の脱ぎ履きをすると、順番の待ち時間が生じ、集団で移動することが難しくなったり、通行の妨げになったりすることがあります。靴の脱ぎ履きはできるだけ立ったままできるよう、毎日の生活の中で習慣付くようにしましょう。また、脱いだ靴を揃えたり、靴箱に入れたりする習慣も併せて身に付けさせましょう。
- ・衣服を脱ぎ着する、脱いだ服をたたむなど、自ら進んでできるようにしましょう。
- ・活動に応じて、素足でいる時と上履きを履く時との区別を意識させましょう。

清掃の仕方

- ・布巾や雑巾、ほうきの使い方に慣れ、洗ったり絞ったりなど用具の正しい扱い方が出来るようにしましょう。
- ・みんなで使う場所をきれいにすることで、心地よさを味わい、自分から生活の場を整えていこうとする気持ちを育てることが大切です。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

自分で持ち物を管理する

- ・徐々に、はさみ、クレヨン、カラー帽子など、保育者が管理するものを減らし、子ども自身で管理するものを増やしていきましょう。



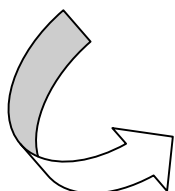
家庭への発信

- ・登降園時に自分のかばんを持つ習慣や、翌日の持ち物の準備を自分でする習慣を付けさせましょう。
- ・衣服の脱ぎ着やたたむ、立って靴を履く、脱ぐ、揃えるなど日常の経験の積み重ねを大切にしましょう。

基本的生活習慣＜食事・排泄＞

【育てる子どもの姿】

- 給食やお弁当を友達や先生と一緒に楽しんで食べる。
- 箸を正しく持って食べる。
- 食事の準備や片付けを友達と協力して行う。
- 食事の終了時間を意識して食べる。
- 活動の合間の時間に、衣服や下着などを全部脱がずに用を足し、身支度を整える。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- 給食の準備、配膳、片付けは、班ごとに当番を決め、教師の指導のもと自分たちで行います。
- 給食の準備は15～20分、食事に20～25分、片付けに約5分が目安です。
- 自分で食べられる量に合わせ、盛り付けをします。
- トイレには休み時間中に行きます。(小学校は和式トイレが多い)

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

食事のマナー

- 楽しくおいしく食事をするためには、食事のマナーを身に付けることがとても大切です。箸の使い方、あいさつや姿勢など、基本的なマナーが身に付くよう、個々の実態を丁寧に把握し、意識を高めたり、目標をもって取り組んだりできるようにしましょう。
- 好き嫌いせず、何でも食べられるようにするとともに、適量を自分で食べられるようにしましょう。

箸を正しく使う

- 箸を正しく持つことは、正しい姿勢を保つためにも大変重要です。一人一人の状況を受け止め、個別に丁寧に指導しましょう。例えば、子どもたちの好きなゲームの要素を取り入れて、大きさや材質の異なったものを箸でつまんで場所を移す競争をするなど、食事以外の場面での取り組みも考えられます。

「配膳」の経験

- 子どもたちが協力して、給食の配膳を経験できるようにしましょう。熱い汁ものや、配膳が難しいもの、重いものは保育者が担当し、簡単な盛り付けなどは子どもたち自身が経験できるようにしましょう。

トイレの利用

- 活動の区切りや食事の前などに、トイレを済ます習慣が身に付くようにします。
- 衣服や下着など全部を脱がずに済ませ、身支度が整えられるように指導しましょう。
- 小学校との交流授業や外部の施設に行く時などに、和式トイレを使用する機会を意図的につくり、指導しましょう。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

食事の時間を意識させる

- 小学校の給食時間である20分～25分を目安に、昼食の時間を意識して、食べ終わるようにさせましょう。特に食べはじめは、食べることに集中させましょう。



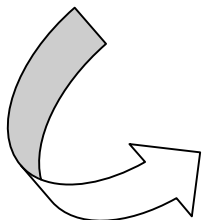
家庭への発信

- 家庭でも落ち着いて楽しく食事をしながら、箸の持ち方を意識したり、マナーを身に付けたりすることができるようにしましょう。
- 食器を並べる、片付けをするなどの手伝いを積極的に進めましょう。
- 栄養のバランスを考え、好き嫌いなく食べられるようにしましょう。
- 登園前に余裕をもって朝食をとり、毎朝排便をする習慣を付けましょう。

他者とのかかわり＜友達との関係＞

【育てる子どもの姿】

自分の考えを相手に分かるよう様々な方法で表現する。
目的に向かって、友達と協力してやり遂げる喜びを感じる。
クラスやグループの活動の中で自分の力を発揮し、互いのよさを認め合える。
自分の気持ちをコントロールしたり、相手の気持ちを受け入れたりする。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・学級での生活班、グループ学習、縦割り班、係・当番活動など、決められた小集団で、めあてに向かって活動する機会が増加します。
- ・学級やグループでの活動、日常の友達との交流のほか、道徳や学級活動で友達とのかかわり方を意図的・計画的に学習し、集団生活の意識を高めます。
- ・幼稚園、保育園では年長者だが、小学校では年少者となる。縦割り班活動や、学校に適應するまでの支援者として、年齢の離れた上級生(主に6年生)とかかわる場面が多くなります。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

自分の思いを伝える機会

- ・自分の思いや考えをグループやクラスの中で、友達に分かるように話すことができるよう援助しましょう。感じたことや発見したことを自分なりに伝えようとすることや、友達の話聞き自分と違う考えがあることに気付くことが大切です。保育者の問いかけや共感的なかかわりなどが子どもたちに新たな気づきを促します。
- ・思わず、友達や先生に伝えたいような、心を揺さぶる体験が得られる保育の充実をめざしましょう。
- ・友達から言われて、嬉しい言葉や嫌な言葉を考え、みんなで話し合う場をつくり、「ありがとう」や「ごめんなさい」などの言葉を日常的に使えるようにしましょう。

協力してやり遂げる喜び

- ・グループ製作や行事での係活動、劇遊びや合奏など友達と協力して取り組む機会をつくりまします。
- ・共通の目的の達成に向け、友達と考えを出し合って、試行錯誤しながら、やり遂げた喜びや満足感を体験することが大切です。そのために、活動内容、活動集団の規模、活動の時期、グループ構成、活動終了時の評価方法などを、年間を通して、意図的・計画的に構築していくことが必要です。

葛藤する経験の大切さ

- ・グループや学級全体での活動について、結果だけではなく、つまづきを乗り越えたり、繰り返し努力したりした過程の大切さに気付かせましょう。活動を通して起きた友達との対立や葛藤は大切な体験としてとらえます。
- ・トラブルの解決に向けては、個別にかかわるもの、クラス全体に紹介して一緒に考えるとよいものなどを区別し、どうしたら折り合えると思うか、子どもの考えを引き出しながら双方の納得へ導きます。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

友達のよさに気づき、互いに認め合う関係

- ・個々のよさや得意なことがクラスの中で認め合える機会を意図的につくり、互いに刺激し合い、育ち合えるクラス集団をつくりましょう。



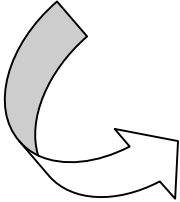
家庭への発信

- ・年長組になって行事をリードすることが多くなります。友達と一緒に頑張った時、やり遂げた時には大いに認め、子ども自身が自分の力を発揮した喜びを感じられるようにしましょう。

他者とのかかわり < 担任との関係 >

【育てる子どもの姿】

クラス全体の中で保育者の指示を理解し、行動する。
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
担任以外の身近な人とも親しみ、かかわりを深める。
年長児クラスの一員としての意識をもち、責任をもって役割を果たそうとする。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・担任対複数の児童あるいは学級全体といった関係の場が増加し、児童も学級の一員としての判断と行動を求められます。
- ・困ったことや分からないことがあるときは、自ら担任に伝えたり尋ねたりします。具合が悪い時や、怪我をした時には、自ら担任や養護教諭に状態等を説明します。
- ・学級の教室の外では、担任以外の教職員とコミュニケーションを図る必要があります。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

聞く姿勢の徹底と保育者のかかわり

- ・話を聞く時には、話している人の方に体の正面を向け、集中して聞く習慣を身に付けさせましょう。
- ・子どもにとってすべきことが明確になるよう指示の方法を工夫しましょう。
- ・保育者が子どもの発言を肯定的に受け止め、一つ一つできるようになったことをほめましょう。
- ・一人一人の置かれている状況や発達などを理解して対応することで、安定感をもって過ごせるようにし、自立心の高まりや意欲が育まれるようにしましょう。

園全体として、年長児の意識を高める

- ・当番活動や係活動において、子どもたちに仕事を分担し、責任をもってやり遂げられるよう促しましょう。役割を果たしたり、認められたりする喜びを経験することで、自己肯定感が高まります。
- ・年長児クラスの一員として、様々な行事の中心になって活動させましょう。クラスという集団で行動しているという意識を高めることが大切です。

担任以外の人とのかかわり

- ・伝達や届け物など、担任以外の職員とのコミュニケーションを図る機会を意図的につくります。
- ・何か困ったことがある時には、自分で伝えられるようにしましょう。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

言葉づかい

- ・場に応じた言葉づかいを知り、使い方を意識できるようにしましょう。
- ・名前を呼ばれた時には、「はい」と返事ができるようにしましょう。

年長者としての自信や自覚

- ・年長児として園全体の中で担ってきた当番活動や誕生会の司会などの役割を、5歳児から4歳児に伝える場をつくりましょう。自分たちの成長を感じ、年長児としての自信や誇りにつながります。



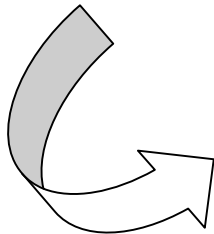
家庭への発信

- ・家庭でも、仕事を分担したり手伝いをしたりするなど、責任をもってやり遂げたり、人の役に立って感謝されたりする経験ができるようにしましょう。

他者とのかかわり < 規範意識のめばえ >

【育てる子どもの姿】

- ・保育者や友達の話最後まで聞く。
- ・相手の状況を意識して行動する。
- ・よいことや悪いことがあることに気付き、考えて言動する。
- ・クラスのみんで楽しく生活するためのきまりや社会のルールを知り、守る。
- ・危険な場所や遊び方に気付き、判断して行動する。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・先生や友達の話は、最後まで黙って聞き、話の内容を理解して自ら行動します。
- ・自分の考えをもとに、一人で発表・発言する機会が増えます。
- ・自ら善悪や安全・危険などを判断し、それに基づいて行動をします。
- ・学校全体や学級のきまりなど、集団生活を行う上でのルールを自ら守ることが様々な場面で求められます。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

話を聞くこと・あいさつ・返事

- ・保育者話を最後まで聞くことが、遊びや生活を進めていく上で、とても大事であることに気付かせましょう。また、友達の話についても、最後まで聞かないと考えや理由が分からないことに気付かせることも重要です。保育者が話をする時は、必ず全員の聞く体制が整ってから始めるようにします。
- ・「自ら進んであいさつをする」「名前を呼ばれたら返事をする」等の習慣を身に付けさせます。

善悪への気付きを促す

- ・「なぜしてはいけないことなのか」を自分で考える場や、「やってよいことと悪いこと」を友達と考え合う機会をつくり、マナーやルールが身に付くようにしましょう。
- ・子どもたちが身に付けていくマナーやルールを、保護者にも共通理解してもらうことが大切です。

「危険なこと」を自ら判断する

- ・危険な場所や遊び方について、様々な場面をとらえて「なぜ、危険なのか。安全にするためには、どうしたらよいのか」などについて話し合う機会をつくりましょう。
- ・散歩や園外保育の機会に、交通安全や公共の場でのルールを守って行動できるよう意識を高めます。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

子ども同士での約束事や課題解決の過程を大切にする

- ・子どもたちの中での役割・約束事が生まれるよう、協同して遊ぶ経験を大切にしましょう。
- ・友達の考えやアイデアに耳を傾け共感したり、意見を言い合ったりするとともに、意見を調整しながら仲間と共に活動を進めていく過程を重視しましょう。



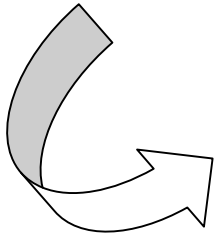
家庭への発信

- ・「保護者が子どもの話を最後まで聞くこと」「子どもに保護者の話を最後まで聞かせること」を日頃から心がけましょう。
- ・入学後は一人で登校することを意識し、交通ルールを守って安全に行動できるようにしましょう。
- ・あいさつや名前を呼ばれたら返事をするなど、保護者も子どもとともに実践できるようにしましょう。

学びのめばえ < 学習習慣・意欲 >

【育てる子どもの姿】

クラス全体の中で保育者の話を聞き、内容を理解して行動する。
保育者が提示した課題を自分の課題として受け止め、最後まで取り組む。
集団で活動する時のルールを身に付け、周りの状況を意識して行動する。
興味、関心を広げたり深めたりする面白さや楽しさを知る。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・教科指導を中心とした時間割による学習に変わります。
- ・1単位時間は、45分間で構成されます。
- ・一斉指導形態で、座ったまま教師の説明を聞いたり教科書や黒板を見たりして内容を理解する場面が多くなります。
- ・学習のルールとして、発言の際には、挙手をして指名されてから発言することが求められます。
- ・宿題や放課後の個別指導など、授業時間以外でも学習する習慣が求められます。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

正しく理解して行動する

- ・説明や指示をした後に子どもとやりとりをし、子どもが内容を理解しているかを把握します。
- ・保育者の指示で、すばやく集合する気持ちよさを感じながら、整列ができるようにしましょう。
- ・保育者の話を聞いて、自分でしなければならないことが分かり、見通しをもったり、周囲の状況を判断して行動したりするなど、自ら進んで取り組めるようになることが大切です。

知的好奇心を高める

- ・保育室に図鑑を用意したり、写真や図に加え文字環境を増やしたりするなど、環境の構成を工夫し、知的好奇心を高めましょう。
- ・見やすい位置に時計・カレンダー・予定表などを用意し、見通しをもって自分たちで行動できる環境を整えましょう。

課題に意欲をもって取り組む

- ・与えられた課題を自分の課題として受け止め、自分の力で解決しようと子ども自身に考えさせながら取り組ませましょう。また、励ましたりヒントを与えたりするなどの援助を工夫しましょう。
- ・課題に向かって取り組む中で、自分の力を発揮しやり遂げた満足感を味わうことで、自信をもって行動できるようになります。
- ・課題や遊びの中で、自分だけでは解決できないことがあった時に、他の人に聞いたり、その考えのよさに気付いたりし、それを生かそうとすることが大切です。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

ひとつのことに集中して取り組む、根気強く取り組む

- ・小学校での交流活動の実施に合わせて、椅子に座って一つの活動を45分間続けることに挑戦したり、小学生と一緒に授業を受けたりする経験をしたりして、入学への意欲を高めましょう。
- ・夢中になったり、根気強く取り組んだりした結果が45分につながるよう、活動内容の計画と個別のかかわりには十分配慮します。



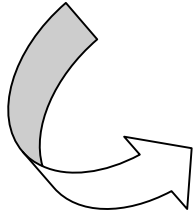
家庭への発信

- ・生活のリズムは、子どもの集中力を高めるために大切です。起床・就寝・食事の時間を子どもの側に立って、改善し、規則正しい生活ができるようにしましょう。

学びのめばえ < 数や形 >

【育てる子どもの姿】

日常生活の中で数量や図形に興味、関心をもつ。
係活動の内容や月日、曜日、天気など数や形による表示への関心を高める。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

小学校第1学年 < 算数 > の指導内容には、例えば、次のような内容があります。

- ・個数や順番を正しく数えたり表したりすること。
- ・加法や減法が用いられる場合について知ること。
- ・長さ、面積、体積を直接比べること。
- ・日常生活の中で時刻を読むことができるようにする。
- ・前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

毎日の生活の中で、数・形の感覚を身に付ける

- ・「今日は何日?」「運動会まであと何日?」など、カレンダーや行事予定表を見ながら話しかけ、数字を読むこと、数字の順番を知ることに関心が高まるようにしましょう。
- ・物を配る時など、必要性を感じながら、子どもが数をかぞえる機会となるようにしましょう。
- ・どんぐりや落ち葉を拾ったり、芋掘りをしたりした喜びの中で、数をかぞえたり、形や大きさの違いに気付き、対象物に十分かわれるようにしましょう。
- ・本は「冊」で数える、車は「台」で数えるなど、保育者が正しい使い方を示すことで、数詞への興味・関心をもてるようにしましょう。

遊びの中で、数や形を学ぶ

- ・玉入れやリレーなど、遊びの中で人数を調整したり、得点を付けたりすることの必要性に気付くようにしましょう。
- ・積み木の構成や空き箱製作、影絵、紙版画など、多様な教材・教具・遊具との豊かなかわりの中で、物の形や仕組みに気付き、遊びに生かせるようにしましょう。
- ・「数字のうた」「カレンダーマーチ」や数にかかわる手遊びなどを通して、数への興味を喚起しましょう。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

どのくらい、どんな形、どの場所(「前後」「上下」「左右」)の感覚

- ・自分が必要なものを求める時や必要なことを伝える時に、ものの数量や形状、ある場所など、相手に分かるように言い表すことができるように促しましょう。



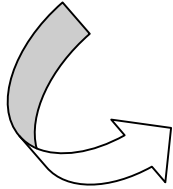
家庭への発信

- ・文字や数に興味をもち、「教えて」と、問われた時が身に付けるチャンスです。

学びのめばえ < 言葉・文字 >

【育てる子どもの姿】

絵本や物語、詩などに親しみ、想像する楽しさを味わったり、言葉の面白さに興味をもったりする。言葉の響き、リズム、美しさなどに気付き、遊びや生活に取り入れようとする。係活動の内容やメンバーの名前、月日、曜日、天気、用具や遊具を片付ける場所など文字による表示を理解し活用する。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・1年生では、ひらがな・カタカナ・漢字(80字)を学習します。「言葉は面白い」と感じたり、「文字を書いてみたい」と思わせたりする指導をすることで、文字や言葉への興味が引き出され、自ら学ぼうとするようになります。
- ・文字や言葉を活用できるようにするためには、繰り返し提示することや声に出してリズムや響きを体感させることが重要です。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

読み語りの時間

- ・絵本や物語などの読み語りの時間を大切にし、話を聞く楽しさを実感できるようにします。
- ・話を聞く時間の楽しさの積み重ねが、話を聞く習慣や態度を育みます。
- ・選書にあたっては、子どもの実態や行事・季節などを考慮し、活動や遊びのイメージを広げるもの、生活習慣の確立につながるもの、規範意識にかかわるもの、友達との関係を考えるものなど、子どもの興味・関心を広げ、新たな価値観を形成していける作品を意図的・計画的に紹介できるように留意します。
- ・リズム感のあるフレーズをみんなで復唱したり、ストーリーに沿って動きの表現をしたりするなどの工夫をし、言葉の感覚を高める、意味を知るなどの機会となるようにしましょう。

読みたい本を選んで読む(見る)

- ・園にある本に親しむほか、多くの本に触れ、手にとって見る機会を計画していきましょう。
- ・地域図書館を利用したり(公共施設利用のマナー指導もできます)、小学校との交流活動の一環で近隣の学校の図書室を利用したり(学校の図書館には、多くの絵本、図鑑類が整えられています)など、地域の資源を活用することを視野に入れましょう。

保育者の聞く態度が伝えようとする気持ちをはぐくむ

- ・保育者の聞く態度が、子どもの話す意欲を育てます。楽しいことを誰かに伝えたい時に、相手からも「よかったね」と喜んで言ってもらえると嬉しく、気持ちを共有することができます。このような経験が、さらに話したいという気持ちを高め、言葉で伝え合う喜びを味わうことにつながります。
- ・保育者の話の聞き方や問いかけ方、受容的な態度や共感する姿は、子どもたちにとって、望ましいコミュニケーションのモデルとなります。
- ・保育者と子どもが対話をしながら、子どもの表現を補い、ふくらませていくことで、考えを伝え合えるようにしましょう。

言葉遊びを楽しむ

- ・子どもたちが、言葉の面白さやかけあいの楽しさに触れることのできる「言葉遊び」を、年間を通して計画的に行いましょう。
- ・かるた、しりとり、早口言葉、数え歌、なぞなぞ遊びなど、いろいろな種類の言葉遊びを体験させ、子どもたち同士の遊びの中にも広がるようにしましょう。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

生活の中で文字を使う

- ・自分の名前を読んだり、書いたりする機会をもつようにします。その際、なるべく丁寧に書かせるようにすることが大切です。文字に興味をもち、「作品に名前を書く」「遊びに必要な文字を書く」など必要性を感じることで、より意欲的に取り組めるようになります。
- ・鉛筆など筆記用具の正しい持ち方について、一人一人の状況を受け止め、個別に丁寧に指導しましょう。



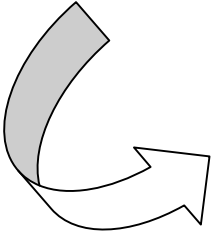
家庭への発信

- ・絵本の読み語りには、親子のつながりを深めるとともに、子どもに知的な育ちを促します。
- ・日常のさりげない言葉のやりとりを大切に、言葉を使う楽しさを感じられるようにしましょう。

学びのめばえ < 自然 >

【育てる子どもの姿】

季節の変化や自然現象に興味・関心をもち、考えたり、試したりする。
自然の不思議に気付き、伝え合ったり、図鑑で調べたり、遊びに取り入れたりする。
身近な動植物の世話などを通じ、生命の大切さや生き物の体の仕組みに気付いたりする。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・小学校生活科の自然にかかわる内容は、以下の通り。
- ・身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできるようにする。
- ・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- ・動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

季節の変化を感じる

- ・さわやかな風、空や雲の様子、日差し、梅雨、暑さ、水の心地よさ、紅葉や落ち葉、風の冷たさ、雪、霜柱など、季節の変化を感じられる自然現象との出会いを大切に、保育者に感動を伝えたり、子ども同士で気付きや思いを伝え合ったりする機会となるようにしましょう。
- ・シャボン玉、色水遊び、船作り、落ち葉や木の実を使った製作、たこあげ、雪遊びなど、季節の変化に対応した遊びが生まれるよう、環境をつくりましょう。伝統的な遊びに関心をもつことにもつながります。
- ・季節ごとに、自然事象をテーマにした歌を歌ったり、本を読んだりすることで、季節の変化への興味・関心が高まります。

植物との触れ合い

- ・春から夏にかけては、生長を楽しみにできる植物（アサガオ、ヒマワリ、野菜の苗等）、秋から冬にかけては、ヒヤシンスやスイセンなど根の様子や芽の出る様子を見ながら世話ができる水栽培などを用意し、年間を通して、植物との触れ合いがもてるようにしましょう。
- ・生長の過程を楽しみながら、花・実の色や形、種などについて興味・関心が高まるようにしましょう。

動物との触れ合い

- ・生き物への興味・関心が高まったり、生態についての子どもたちの気付きを話題にしたりできる身近な生き物を飼育し、観察できるようにしましょう。
(カブトムシ・チョウ・カマキリの幼虫、ダンゴムシ、オタマジャクシ、メダカなど)
- ・子どもたちが興味をもったり疑問を感じたりした時に、すぐに調べられるよう、図鑑や絵本を手に取りやすい位置に用意しておきましょう。(絵が大きく文字が少ない簡易な図鑑など)

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

春の訪れとともに進級する喜びを感じさせる

- ・春に花が咲く植物の種まきや苗植え、球根植えを行い、春の訪れを実感させながら、自分たちが成長した喜びを味わわせる環境を整えましょう。



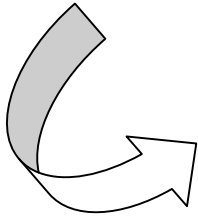
家庭への発信

- ・親子で自然に触れる機会を多くもち、自然の美しさや不思議さなどを体験できるようにしましょう。
(花を育てる、動物と触れ合う、星空を見上げる、夕陽を見るなど)

学びのめばえ < 運動 >

【育てる子どもの姿】

自分の体を十分に動かし、進んで運動しよう（遊ぼう）とする。
体を動かすことに興味・関心をもち、安全についての構えを身に付ける。
集団遊びの楽しさを知る。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

指導計画に沿った体育の学習や体育行事等を中心に体力向上を図ります。
低学年の指導内容は「体づくり運動」「器械・器具を使つての運動遊び」「走・跳の運動遊び」「水遊び」「ゲーム」「表現リズム遊び」で構成されています。
体育の学習は、体育着に着替えて行います。
けがの防止や姿勢の保持などにつながる、体力や身体のバランスのとれた動きを高めていきます。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

様々な体の動きを経験できるようにする

- ・ボールを「投げる・捕る・蹴る」、縄やフープなどを使って「歩く・走る・跳ぶ」、鉄棒に「登る・ぶら下がる」など、体の様々な部分を使った動きを経験させましょう。
- ・安全に運動するために必要な集合や整列などの行動の仕方についても、併せて指導していくようにしましょう。一定の方向に動くことや間隔をあけること、順番を守ること、跳び箱・平均台などの遊具を整えて置くことなど、自分の安全とともに集団としての安全が意識できるように働きかけていきます。

子どもの成長にあった運動や遊び

- ・体・脳・筋肉をバランスよく発育させ、運動の効果を高めるため、子どもの成長にあわせた運動や遊びを計画的に取り入れましょう。（例：かけっこ、鬼あそび、ボールあそび、コーディネーショントレーニングなど）
- ・それぞれの運動や遊びで育つ能力や指導のポイントを理解した上で、子ども一人一人の心の動き（見た通りの動きを模倣しようとする、面白いと思い繰り返す、できないがやろうとするなど）をとらえて、適切な課題設定で体を動かすことの楽しさを体験させていきましょう。

自分なりに挑戦できる環境づくり

- ・ボールや縄とびなど、自分のペースで挑戦したり、繰り返し行ったりできる遊具や用具を常時、準備しておきましょう。挑戦に対する保育者の励ましとめあてを達成したことへの喜びが、次の意欲を生みます。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

自分たちで遊びを進める

- ・ドッジボールやサッカー、リレーなどの遊びを通して「人数を調整する」「チームを決める」など、遊びを楽しくするためのルールが必要なことに気付かせましょう。子ども同士で工夫しながら遊べるようにすることが大切です。
- ・保育者は一人一人の意見や発想を大切にしながら、協力して遊びが進められるように見守り、トラブルが起きた時は、互いの考えを出し合える雰囲気を作るなど、解決の方法を一緒に考えましょう。



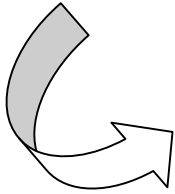
家庭への発信

- ・歩く、走る、重いものを持つ、紐を結ぶ、解く、物を揃える、たたむ、絞る、ひねるなど、体を使った様々な動きを繰り返し行う機会や場を意図的につくっていきましょう。

学びのめばえ < 表現 >

【育てる子どもの姿】

空き箱や自然物、段ボールなど身近な材料を使ってイメージを表現することを楽しむ。
クレヨンや絵の具、色鉛筆やマーカーを使って、自分の思いやイメージを伸び伸びと表現する。
友達と歌を歌い、歌声が揃う楽しさや心地よさを感じる。
さまざまな音の面白さや美しさ、リズムの変化や強弱などを感じて楽しみ、生活に取り込んだりする。
見たこと、したこと、聞いたこと、感じたこと等を自分なりの方法で伸び伸びと表現する。



【円滑な接続に向けて考慮すべき小学校の教育活動】

- ・図画工作や生活科等、各教科の学習の中で、観察したことや想像したことなどを、絵や図で表す機会が増加します。
- ・音楽科の学習内容は、表現(歌唱の活動、器楽の活動、音楽づくりの活動)と鑑賞(鑑賞の活動)で構成されています。

年間を通して、こんな指導を進めていきましょう

道具の特性を知り、使えるようになる

- ・糊やテープ、はさみ、ステプラーなどの道具の扱いや、また紙の折り方や紐の結び方などの技能を身に付け、生活や遊びの中で活用できるようにしていくことが大切です。
- ・クレヨンや絵の具、色鉛筆やマーカーなどの、基本的な使い方を知らせましょう。材質の違いや特性を知ること、自分の目的に合った道具を選ぶ力を育みます。

音にリズムや強弱を感じる

- ・音の面白さや美しさ、リズムや強弱等を意識しながら、楽器や歌を楽しむ機会をつくりましょう。
- ・季節の歌や行事の歌など、ピアノの伴奏に合わせて歌う活動を通じて、歌声が揃う楽しさや心地よさを味わわせましょう。

年度の後半からは、こんな指導を進めていきましょう

みんなで一つのものを表現する

- ・共同製作や劇遊び、合奏など、共通の目的に向けて、互いに自分なりのイメージや思いを出し合いながら取り組む活動を通して、刺激し合い、力を合わせてやり遂げた達成感を味わえるようにしましょう。活動を進める中で、子どもたちが考えたり、工夫したりする部分を明確にし、活動に見通しをもって取り組めるようにしていくことが大切です。

表現する喜びを体験する

- ・さまざまな素材や材料にふれ、特性を生かして表現方法を楽しめるようにしましょう。
(絵の具の絵、紙版画、スクラッチ、糸引き画など)
- ・合奏や劇遊び、製作活動など、クラス全体やグループで取り組む中で役割を分担し、互いのよさを認め合いながら、最後までやり遂げる喜びを味わわせるようにしましょう。



家庭への発信

- ・家族で、音楽や絵画など身近な芸術に触れる機会をもち、美しさや楽しさを子どもと共有できるように心掛けましょう。
- ・子どもの表現を価値あるものと受け止め、子どもが表現する喜びを実感できるようにしましょう。

めざす児童の姿(3ヶ月後)		
基本的 生活習慣	一日の生活	一人または児童同士の小集団で、安全に注意しながら、寄り道をせずに登下校できる。生活時程に慣れ、チャイムの合図で、次の活動に移行するための準備を整えることができる。学級等の集団で1日中過ごすことができる。休み時間中にトイレ、水飲み、手洗い、うがい等必要なことを済ませることができる。安全に気を付けて遊ぶことができる。
	学習環境	自分の机やいすを決められた位置で決められた方向へ向かせ、姿勢よく座り、前を向いて、教師の話や板書を見て、次時や翌日の準備などを理解することができる。
	身の回りの管理	自分で学習用具を揃え、不必要なものは、道具箱やロッカーにしまうことができる。ハンカチやティッシュなどを携帯し、必要に応じて使用し、清潔な生活習慣を身に付けている。決められた時間と場所で着替え、脱いだ衣服等の整理整頓ができる。自分たちの教室や廊下を自分たちで協力して清掃することができる。
	食事・排泄	給食では自分で食べられる量を理解し、必要に応じて、食前に量を減らしたりして、時間内に食べ終えることができる。班の友達などと協力して、給食の配ぜんや片づけを順序よくできる。学校のトイレを使用し、一人で排泄できる。
他者との かかわり	友達との関係	生活班やグループ学習で、同じグループの友達と協力して、共通の学習課題に取り組める。集団で生活していることに気付き、自分勝手な行動をしない。他学年の児童と、ふさわしい人間関係で接することができる。
	担任との関係	担任との信頼関係を築きながらも、学級みんなの先生であるということを理解できる。自分の体調の変化や、困っていることなどを、自ら担任や養護教諭などに申し出ることができる。学校でかかわりもつ教職員と、あいさつや話することができる。
	規範意識	授業中や行事等では、話をしている人の方を見ながら、黙って話を聞くことができる。してはいけないことに気付き、自らの行動を制御することができる。学級の約束や週目標を守ることができる。先生等の指示を聞いて、行動に移すことができる。学級などの集団の前で、自分の考えやせりふ等を発表できる。
学習に 関すること	学習習慣・意欲	授業中は先生の話をよく聞き、指示された活動を行うことができる。1日の学習を集中して受けることができる。文字や数に対する興味をもって学習に臨むことができる。友達の発言を聞いたり、自分が発表したりするときの約束を守って、発表しあうことができる。宿題を毎日忘れずにやってくる。教科書を活用して学習することができる。
	教科等	学習指導要領の内容を習得できる。ひらがなが読め、書いていることのおおよそを理解することができる。学習したことを分らないままにしないで、分かるまで質問したり、周りの人に手伝ってもらったりしながら取り組むことができる。
	運動・表現	自らの体力を向上させるために進んで運動することができる。動きを工夫したり、結果を予想したりしながら、けがの防止に努めることができる。音楽を楽しみながら、歌ったり、演奏したりすることができる。見たものや想像したことを簡単な絵や図で表すことができる。ブロックやおはじきなど、手を使って細かい作業をし、それらをもとに、考えを深めたり、学習に結びつけたりすることができる。

	幼児教育から小学校教育への移行における指導のポイント	スタートカリキュラム(第1~3週の観察期を例として)	
		4月[1週目]	4月[2・3週目]
一日の生活	集団下校指導の実施(通学路安全点検) 早寝・早起き指導 15分、20分、30分等、小単位時間でのモジュール授業の導入 朝の時間の工夫(読み聞かせ、簡単な運動)による生活リズム定着 休み時間の活動例の練習 教師も外遊びをしながら指導	登校児、通学路には生活指導部等、学校組織で安全管理を行い、第1学年担任は教室で児童を迎える。登校を渋っている児童や不安を示している児童の把握を行う。出席を取りながら、一人一人の児童に返事をさせ、健康観察を行う。下校時刻は余裕をもち、方面別に集団下校を実施する。その際、教職員や下校指導ボランティア等の大人は、交差点など具体的な危険箇所を伝え、渡り方等を実演して示す。	担任は教室で児童を迎える。登校を渋っている児童や不安を示している児童については保護者に連絡する。健康観察時、具合が悪い時は自分から言うよう指導する。朝の時間に読み聞かせや簡単な運動を行い、1日の生活リズムをつくる。チャイムを意識させ、休み時間の活用方法を指導する。集団下校を継続する。中休みには外遊びを担当または上級生と一緒にいながら児童の様子を観察する。
学習環境	入学式直前での座る姿勢、聞く態度の指導とその後の継続 グループや1対1の向かい合い等の机配置の工夫や床に座って話を聞く場等の設定 絵や図を活用した色彩豊かな掲示物の工夫 季節感のある作品やカレンダー等の掲示	前面壁は必要最小限のものだけを掲示する。(学校目標・週時程表・時間割等) 机、いすは、一斉指導隊形で設置したままにする。座席は入学式当日に指定した場所とする。	誕生日や班の紹介・係の仕事等の掲示を工夫する。一斉指導隊形を基本としつつ、生活班で向かい合せになったり、床に座ったり、机を下げているだけで話を聞く場等を工夫する。
身の回りの管理	自己管理するものを最小限にし、徐々に増やす。使用頻度が低いものは担任が管理 登校後の用具の準備や片づけの仕方を学年共通にし、継続指導 毎日の持ち物確認 ハンカチ等の使い方指導 着替え、脱いだものの整理の練習(音楽に合わせて時間を体感させる)	持ち物は、連絡帳、筆箱(鉛筆3本程度)、下敷き、自由帳、体育着、教科書(国語・算数程度)、ハンカチ、ティッシュ等、必要最小限のものとする。 防犯ブザーの使い方を習得させる。学習道具等の持ち物の確認を行い、一つ一つ、しまう場所を確認しながら、整理させる。掃除はゴミ拾い程度をさせる。週末には上履きを持ち帰らせる。発育測定に合わせ、体育着への着替え、脱いだ衣服のたたみ方を練習する。	給食時に必要なもの(ランチョンマット、バンダナ、マスク)等、少しずつ自分で管理する持ち物を増やしていく。必ず持ってくる物は毎日確認する。はさみやのりなど、当初はあまり使用しない物は担任が管理する。毎日の持ち物の確認をする。ハンカチ等の使い方指導を指導する。掃除は、ゴミひろいに加え、机やロッカー等の整理を行わせる。
食事・排泄	少なめの配膳で少しずつ量を増やし、自分の適量を把握させる。給食時間を増やし、一つ一つ確認しながら、作業手順を覚えさせる。熱い汁もの等は教職員が担当する。手洗い、机の移動、配膳の仕方等を準備する側と配膳を待つ側に分け、TT指導 和式、洋式トイレ、それぞれの利用の仕方の説明・練習	入学後、4、5日目から給食指導を行う。時間に余裕をもって、一つ一つ確認しながら実施する。複数の教職員で全体指導と配膳補助を担う。給食は少なめの配膳で、足りない場合はおかわりをするようにし、自分の適量を把握させる。トイレ、水飲み場の確認と、実地で使い方を説明する。	給食時間は他学年より5~10分程度多目にとり、一つ一つ確認しながら、作業手順を覚えさせる。食事の基本的なマナーを守らせる。熱い汁ものや、給仕が難しいもの、重いものは教職員が担当する。休み時間等を活用してトイレに行くようにさせるが、我慢できない場合は申し出るようにさせる。
友達との関係	隣同士の2人組から生活班等へ、簡単な活動での小集団の活用 友達づくり・自己紹介ゲーム等 学校、学級のきまりを理解させる。「ありがとう」「ごめんね」等、友達同士で使うべき言葉の指導 嫌なことを言われたときの気持ちや対応の仕方を、ロールプレイ等で理解 高学年が責任をもち、手本となる縦割り班活動の実施	生活科で自己紹介ゲーム等を行い、友達づくりを支援する。毎朝と帰りに友達や先生とあいさつをすることを覚えさせる。6年生等との交流を通して学校や上級生に親しみをもてるようにする。	隣同士の2人組から、生活班等へ、簡単な活動で小集団を活用する。友達から言われてうれしい言葉や、いやな言葉等について話し合い、使うべき言葉づかいの指導をロールプレイ等を活用して行い、よりよい人間関係の基礎を育てる。高学年が責任をもち、手本となる縦割り班活動を実施する。
担任との関係	単純明快な指示、スキンシップ 担任が給食班に順番に入り日常会話 朝の健康観察の徹底と言葉かけ 養護教諭による保健指導 学校探検で担任以外の教職員について知る。 下校時に明日の登校へ期待をもたせる話やゲーム、握手など	学校での基本的な生活習慣を担任が実際にやって見せて覚えさせる。一度に複数のことを要求せず、児童にとってすべきことが明確になる分かりやすい指示で指導する。担任の言うことを何よりも優先して聴く習慣を身につけさせる。一つ一つできるようにしたことをほめて伸ばす。	休み時間は児童と共に過ごすことで、児童に不安を与えないようにするとともに、児童理解を深める。担任が給食班に順番に入り日常会話などで、児童とのコミュニケーションを図る。下校時に読み聞かせやお話、ゲーム、握手などをして、明日の登校へ期待をもたせる。
規範意識	守るべきことの周知徹底(大切なものから少しずつ) 保護者との共通理解、図など分かりやすい表現での掲示、繰り返し指導、ほめる機会と毅然とした態度 元気な挨拶の徹底 よいこと悪いことの場面設定によるロールプレイ 音声言語理解力の育成 1年生を迎える会での発表指導 日直や朝のスピーチ等での発表機会の設定	友達とけんかをしない、先生の話をしっかり聞くことなど、優先順位をつけて、学校でのきまりを一つ一つ指導する。学校のきまりなどを学年便りなどを通じて保護者に知らせ、理解を図る。学級単位での整列に仕方を覚える。誰に対してもあいさつすることの大切さを指導する。	授業中と休み時間とは、とるべき行動が違うことを理解させる。やってよいことと悪いことの場面設定によるロールプレイを実施する。先生の指示に従うことを徹底させる。廊下の歩き方や1年生を迎える会での座り方、聞き方を習得させる。誰にでも元気な挨拶ができるようにする。
学習習慣・意欲	説明・指示をした後に、伝わっているかを把握 前に集まる場面(車座やいすだけ)を意図的に増やす。 絵や写真等を活用しながら、文字や数への興味・関心を高める 興味深い絵本などの読み聞かせ 宿題に関する保護者との連携 時計・カレンダーのたいたいの見方 教科書使用に関するガイダンス 知的好奇心を高める導入の工夫や環境設定	1年生を迎える会に向けて、学ぶべき内容を説明し、楽しみながら学習のめあてをもたせる。早寝早起きや、記名、あいさつ、返事等の生活習慣の確立を目的とした家庭での課題を出す。1単位時間にこだわらず、柔軟に休憩をとりながら指導する。	教科書及び時間割に関するガイダンスを行い、これからの学習の見通しを説明して、学ぼうとする意欲を喚起する。1年生を迎える会に参加し、1年間の学校生活への期待を膨らませる。家庭での課題を継続する。45分を分割するなどして、無理なく1単位時間を覚えさせる。
教科等	個人差への配慮(遅れている児童への支援) 毎時間1回は、話を集中して聴く時間の設定 丁寧なひらがな指導による確実な習得	国語科・生活科の合科で、あいさつと返事、鉛筆の持ち方、自分の名前を読み書きを練習する。音楽科・生活科の合科で、1年生を迎える会の呼びかけや歌、校歌の練習を行う。生活科では、道具箱の整理を行う。	国語でひらがなの読み書きを始める。算数で、仲間分けなどを通して、数への興味をもたせる。生活科で学校探検をし、様々な教室や施設があること、また多くの人がそれぞれの役割を果たしていることに気付かせる。
運動・表現	休み時間の遊びの奨励(縦割り班や教師との集団遊び) 危険な場所や行為を想定した場を設定し、判断させる。「図工と生活科」、「音楽と生活科」の合科的指導による表現力の育成 算数における具体物の操作による数への慣れ	体育科・生活科の合科で、体育着への着替え、衣服のたたみ方、簡単な運動を行う。小学校に入学して、やりたいことなどを言葉や絵で表現させる。校歌の指導を通して、小学校の一員であることを自覚させる。	体育科では、体づくり運動を通じて、体を動かすことの楽しさや心地よさを味わわせる。危険な場所や行為を具体的に判断する場を設け、安全指導を徹底する。

幼児教育振興プロジェクト委員会 委員名簿

委員長	鈴木 一 夫	学校教育部長
副委員長	村岡 徳 司	子ども家庭部長
委員	中村 豊	教育指導室長
委員	市川 保 夫	子ども家庭課長
委員	土屋 亘 弘	保育課長
委員	高松 政 則	教育指導室統括指導主事（特命）
委員	大高 美奈子	保育課保育指導担当係長
委員	小林 祐 二	子ども家庭課私立幼稚園係長
委員	河野 聖	子ども家庭課子ども施策推進担当
委員	中江川 麗 子	本木保育園長
委員	後藤 登美子	西綾瀬保育園長
委員	沢井 範 子	興本保育園長
委員	服部 潮 美	元町保育園長
委員	土田 道 子	鹿浜保育園長
委員	大塩 孝 子	上沼田保育園長
委員	林 友 子	元宿幼稚園長
委員	阿内 三智子	鹿浜幼稚園長
委員	飯塚 慶 子	おおやた幼保園長
委員	増田 好 範	教育改革推進課長
事務局	海老沢 初 代	教育改革推進課幼児教育係長
事務局	赤坂 榮	教育改革推進課行動計画担当係長
事務局	野口 晋 平	教育改革推進課幼児教育係

<オブザーバー参加>

山 田 誠	千寿常東小学校長
田 村 正 弘	舎人小学校長
浅 川 益 宏	花畑第一小学校長